

研修名 管理者研修（午後）

平成28年5月11日(水) 13:00～15:30

講演 「プロジェクト保育の理論と実践」

講師 社会福祉法人赤碕保育園 福田 泰雅 氏

1 講演要旨

1) 保育（幼児期の教育）の目的

・人格形成の基礎を培い、一生涯、心身ともに豊かに育つ基礎を築き、隣の人（友だちや異年齢児）に援助をしていく経験が、すべての人や社会・世界のために貢献して生きるように育つことに繋がる。保育の目的である、「人格形成」の基礎は遊びの中で学ぶのだが、現代人は、正解を見出す為ばかりが良いこととされる「効率性」と、効率性を上げるための言われた通りにしなければならない「管理社会」で過ごす中で、関係性（心が開かれること）が希薄となり、自らが考えたり、友だちと協力をしたり、試行錯誤をしたりして、物を作る面白さを知らずに成長している傾向にある。又、これらの正解主義、効率主義の中では、子どもの発達は、「出来なければおかしい」という子どもを見つけられてしまう為、治療的保育が必要という結果となっている。

2) 人格形成の基礎は遊びの中で学ぶ

日本教育新聞に掲載された、「中学校の生徒指導の課題」で、本来は就学前に芽生える部分と考えられる項目が並んでいたが（・人間関係づくりが不得手・言葉による自己表現が苦手・忍耐力の不足・情緒が不安定・自己中心的・衝動的・自立心の決如・自主性の決如）これらは、乳幼児期に「喜び」「楽しさ」「面白さ」「不思議さ」「驚き」「憧れ」を持って物事に取り組んだかの経験値で身に付くものであるが、大人が主体となった教育、知識の量で子どもをはかるシステム化されている学校のしくみ、そのしくみが家庭でも重要視されてきている現状では、乳幼児期に身に付けられず、これらの項目が中学校で掲げられても不思議ではない。では、大人が主体ではなく、子ども主体の目指すべき保育とはどういうものなのか…

・物事を生み出す原動力になる想像し、創造する生活によって学ぶ

（ファンタジーや表現との関係）

- ・誰かのようになろうとして学ぶ（あこがれ）
- ・美しさにあこがれて学ぶ（あこがれ）
- ・不思議さや驚きから学ぶ（環境）
- ・新しいことに挑戦しようとして学ぶ（関心）
- ・こだわりを持って取り組むことで学ぶ（熱中）
- ・自分の考えを表現して学ぶ（表現）
- ・粘り強く成し遂げようとして学ぶ（忍耐）
- ・責任を果たそうとして学ぶ（無償行為としての責任）
- ・共にいることによって、学ぶ（協同）

3) 目指すべき保育は

子ども主体の保育＝一人ひとりが主体となる保育を保証することが必要である。乳児期は特にその子なりに意味づけをしながら生きており、例えば、机に乗ってジャンプをして遊ぶことも、ベッドの上でジャンプをして遊ぶことも、子どもにすればジャンプをして遊ぶ

ことには変わりはない。このことを受け止めた上で、新しい意味づけを伝えていくことが重要である。又、乳幼児期は物、人、出来事との対話による保育によって、学びの構えが構成されていき、共通の物、人、出来事との対話の中で新たな疑問や発見が生まれ、根源的探究心による本質理解～なぜこうなるのか？こうすればどうなる？何故こうならないのか？本当はどうなのか？～の欲求が高まる。

協同的に学ぶことにより、学びが広がり深まるとともに、協同的に学ぶ大切さを認識していく為、保育園は家庭、学校の中間的存在としてノンフォーマル～経験から学ぶ～ことを目的した保育を目指すことが大切である。

生活範囲・活動範囲の広がり、保育者の介在が必要不可欠で、体・頭・心が一体となる遊びの展開が求められる。保育者が五感の相互作用を知り、子どもには遊んで学び、学んで表現し、表現して遊ぶことが経験できるようにする。それは早く効率よく正しく出来る価値観ではなく、それぞれが経験的に学んできたことを基に対話をし、表現を通じて新たな物語を創り出すことであり、他者の願いを含めて仲間を作る物語であり、仲間の物語でもある。その背景には目に見えない大きな存在（時間的、文化的、宗教的）があることも知る事になる。

4) プロジェクト・アプローチ保育の進め

学びの構えの構成を目的として保育を充実すると、教育の目的である人格形成の基礎を培うことにつながる。プロセスが命であり、結果論ではない。子どもは教わるのではなく、自らが学ぼうとする。

5) 保育におけるプロジェクトの特徴

・目的はある・期間を定める必要はない・資源は問題になりにくい・トピックの多様な面に焦点を当て、学びの共同体の関係性を生み出す枠として機能する・進み方が対話的である・多様な価値が尊重される学びの技法・生活から学ぶ為の技法
～トピックについて～

日常生活の中で出会う不思議さ、驚き、憧れがトピックになる。日常的にどこにでもある物が題材になる。多様な学びを知り、集めるために、Web（マインドマップ）で話し合う。トピックが意識化されるので、学びにつながる。

6) プロジェクト保育の終わり方

子ども自身が終わりを決めるため、フェードアウトすることもあり、問いを開いたままにすることもある。「あ～面白かった！もうくたくたです。」で終わる事が多い。

2 感想

この度は管理者研修に参加をさせていただき、ありがとうございました。

「子どもの発達、大人の願いが達成されることによってではなく、子どもの願いが達成される課程で行われるのである」との先生のお言葉の本質が、プロジェクト保育に繋がると、本日の研修で学ばせていただきました。自園でも、子どもが主体となる保育「あ～おもしろかった！もうくたくたです。」と子どもから聞けるよう、努めていきたいと思います。